

みんなで作戦会議

寄付・社会的投資が進む社会の実現に向けて、
循環型エコシステムへの進化をみんなで考える会

日本ファンドレイジング協会

2021年6月15日（火） 19：30～21：00

日本ファンドレイジング協会 10周年宣言（2019年作成）

寄付、社会的投資が進む社会とは、

「応援し、分かち合える社会。」

「何度もチャレンジできる社会。」

「誰かの役に立つことが自分自身の幸せとつながる社会。」

「困った時、助けてくれる人がいる。そう、信じられる社会。」

5つの宣言

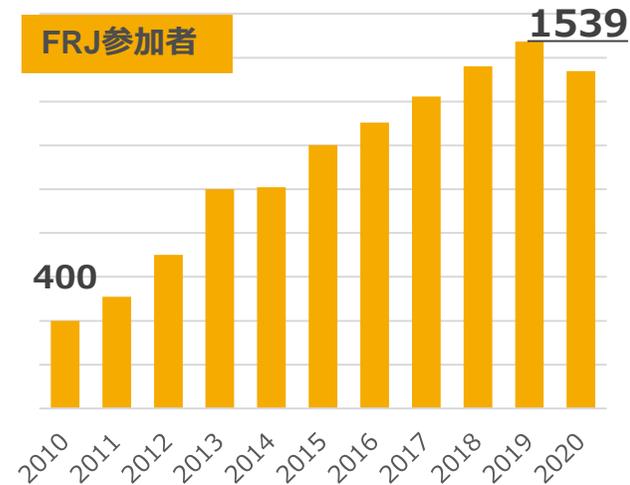
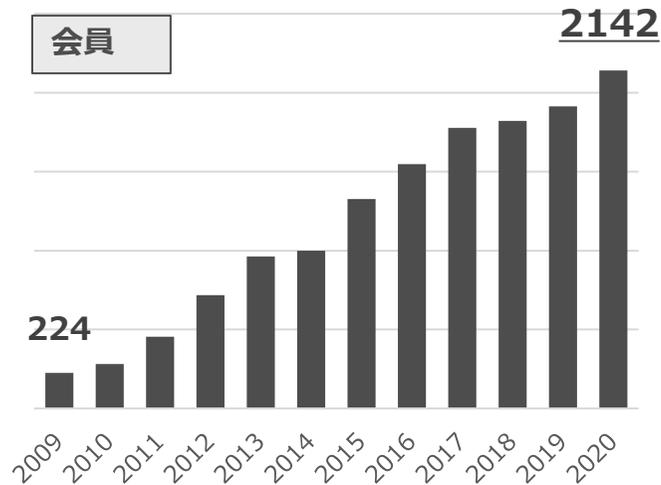
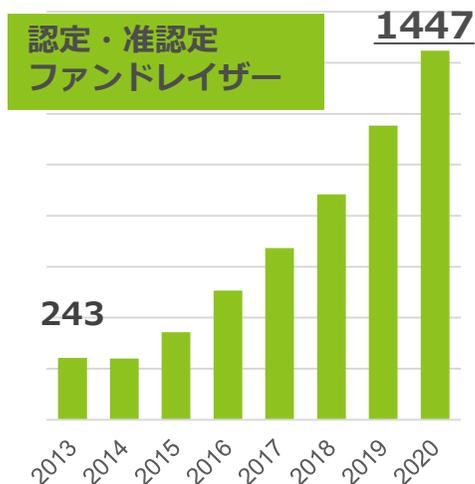
- 宣言1 想像を超えた新たなチャレンジを誘発する
- 宣言2 寄付が“成功体験”や“自身の幸せ”につながる社会にする
- 宣言3 次元の異なるスケールの資金循環を生み出す
- 宣言4 エコシステム（生態系）の構築に貢献する
- 宣言5 ファンドレイザーが輝く社会を実現する

「我々は、十分にやれているだろうか」

「個人一人ひとり、法人一つひとつの持つ可能性を

最大限に発揮する応援ができているだろうか」

ステークホルダーの成長の歩み



関わる人が増えたことは大切。

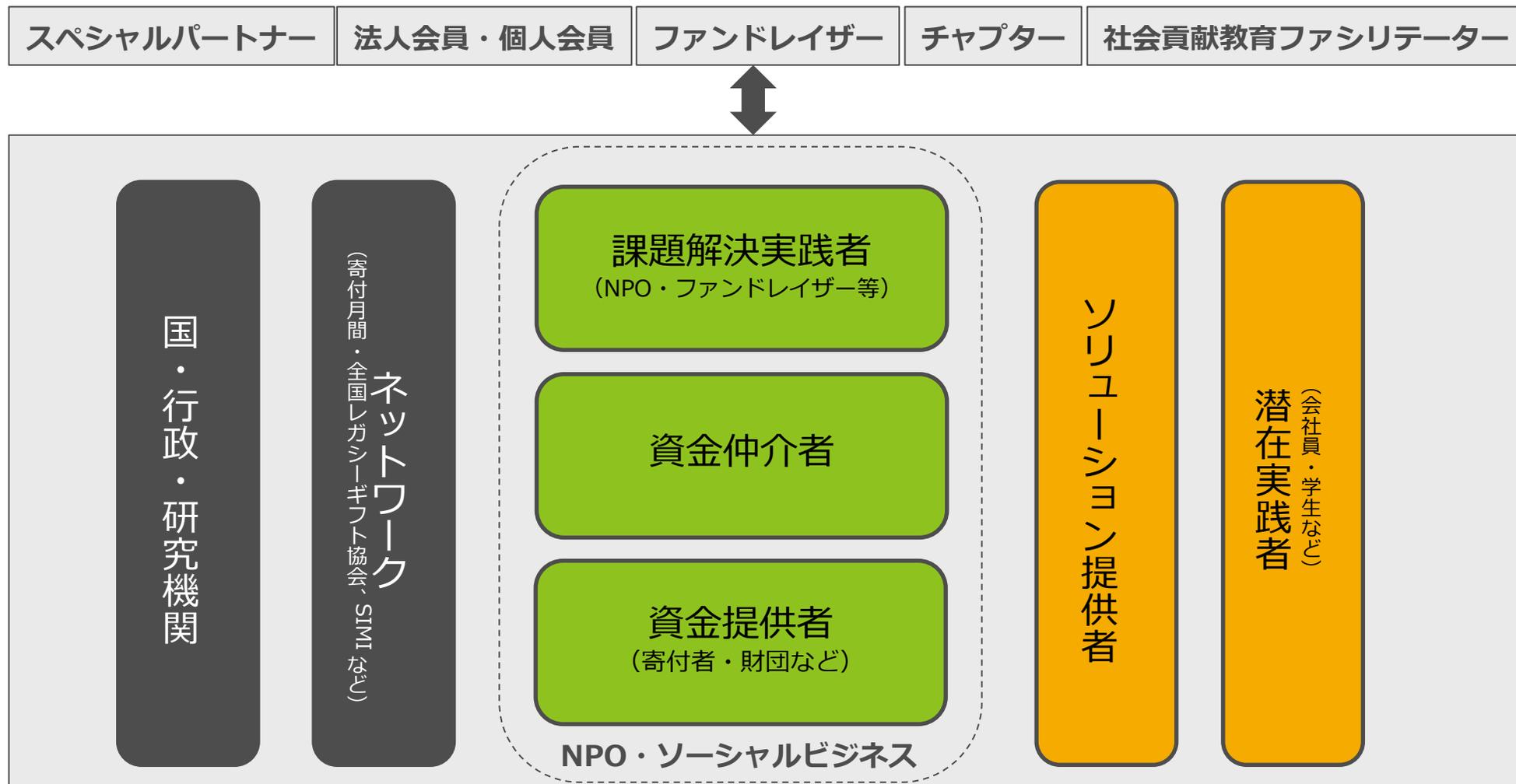
しかし、その人たちにとってのWIN

【社会課題解決、目標達成、キャリア、達成感等】

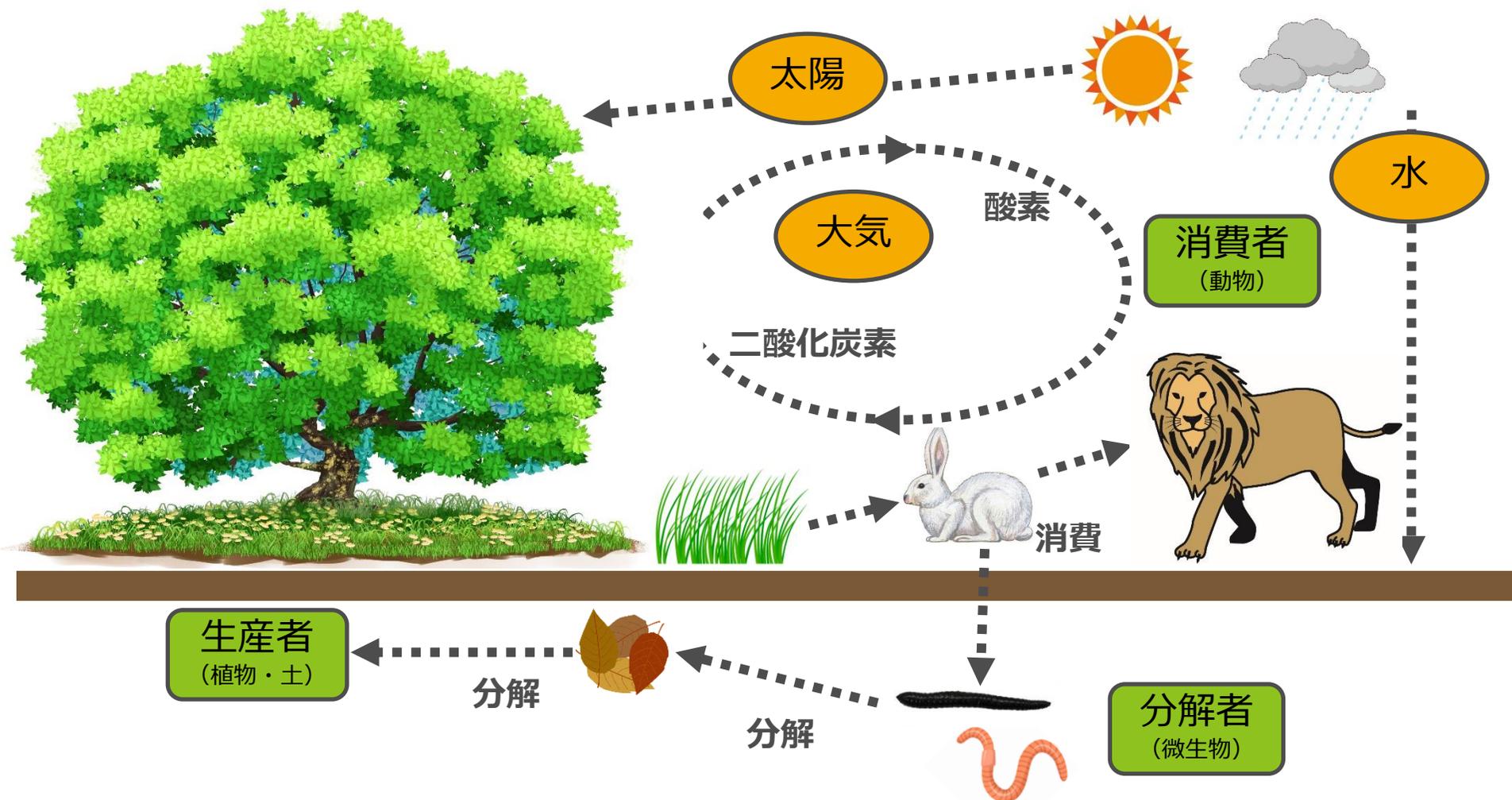
が本当に実現しているのかがもっと大切。

わたしたちのエコシステムの構成要素

領域 | 寄付・社会的投資・社会貢献教育・インパクトマネジメント



エコシステムの循環



わたしたちのエコシステムは、最適に循環しているだろうか？

ステークホルダーへのヒアリング

観点	課題・必要なこと	エコシステムへの反映の視点
寄付市場	<ul style="list-style-type: none"> ■ 爆発的に寄付が成長する仕組み ■ 特定領域毎の課題を突破する戦略本部機能 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大きな寄付が動く仕組みを一緒に仕掛けるための場
中間支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ FRを雇用することの費用対効果の実証 ■ 資金仲介組織のファンドレイジングの知見の体系 ■ FRにフィナンシャル・アドバイザーの知見が必要 ■ 遺贈寄付としてのLearning by Giving 	<ul style="list-style-type: none"> ■ FRの投入による収益効果の可視化 ■ 資金仲介組織のFRの専門研修とコミュニティ化 ■ 地域の活動とFRとの関係性のモデル形成
非営利団体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 政策による自己資金調達強化の誘発 ■ フリーランス人材の非常勤勤務の最適モデル ■ NPO全体の信頼性向上底上げ ■ 資金と活動理念ズレがおきない資金に依存しない状態 ■ 身近なファンドレイジングの事例とFRの存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福祉領域の政府提案による「主流化」 ■ ファンドレイジングにかかる資金が出せる制度改善 ■ NPOのコンプライアンス力強化の分科会 ■ 各団体が組織・事業・財源の最適状態を考える機会 ■ 各団体が資金(お金)に向き合う機会 ■ ファンドレイジングの概念のリブランディング
ソリューション提供者	<ul style="list-style-type: none"> ■ データドリブン分科会の立ち上げ ■ 特定領域のプロ同士の学びあい・つながりの機会 ■ クラファン成功のための短期支援FRが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミニ分科会を立ち上げやすい仕組み ■ ファンドレイジングのプロのコミュニティ ■ ソリューション提供者とフリーランスとのつながり
ファンドレイザー (FR)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践の機会・経験積む場 ■ インハウス型コンサルタントモデルの一般化が必要 ■ 伴走支援者とNPOとのマッチングの仕組み ■ 伴走支援者のコミュニティ ■ FRの役割(考えるべき本質的なこと)を考える場 ■ 専門課程型の学びの場とコミュニティ ■ 専門職FR以外のキャリアパスの可視化 ■ トップを伸ばす&裾野を拡大する両方の戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ■ NPOのためのインハウス型コンサルタント活用講座 ■ NPOと伴走支援者・フリーランスのマッチングを含むFRの実践経験と成果を積み上げる機会 ■ 組織基盤強化の観点を含めた資格研修の更新 ■ 専門課程+コミュニティ化 ■ FRのメンタルサポート ■ FRの多様なキャリアの可視化と実態調査 ■ トップ層のモデル化&裾野を拡大&トップ層にステップアップしていく全体設計

エコシステムの進化に向けた切り口

エコシステムを進化させるための課題整理（暫定）

- 大きなブレイクスルーを生み出す戦略本部機能の必要性
- エコシステム成長の戦略設計（トップ層強化、裾野拡大、ステップアップ）が不十分
- ファンドレイザーの多様なキャリアパスの明示と身近な成功事例の可視化の必要性
- NPO・FRがお金と向き合うこと、本質的に理解することの経験共有と専門領域毎の進化
- 多様な働き方に対応した伴走支援・副業・フリーランスファンドレイザーの実践機会の創出
- 団体が自らの組織・事業・財源の最適状態（あるべき姿）を確認、アップデートする機会



エコシステム進化に向けた主要なアクションイメージ（例）

ビック・ブレイクスルー

- 制度や仕組の創出で大きな規模での機会を創出する
- 大学・研究開発法人、社福、財団、NPO等を制度・予算面でファンドレイジングをしやすいにする

専門志向と本質を探る コミュニティの設計

- 専門領域毎に、①戦略本部 ②専門課程提供③学びあいのコミュニティを設計する
- ナレッジの共有だけでなく、ファンドレイジングの本質を理解しあえるコミュニティ

実践と成果を積み上げる マッチング支援

- 多くの団体が伴走者・ハンズオンFR支援を受け入れやすくなる理解・状態を分野毎、地域毎に実現する
- 全国の様々な地域・団体の中で、ファンドレイジングが身近な存在となり、実践できる状態を実現する

リブランディングと FRJ最大有効活用

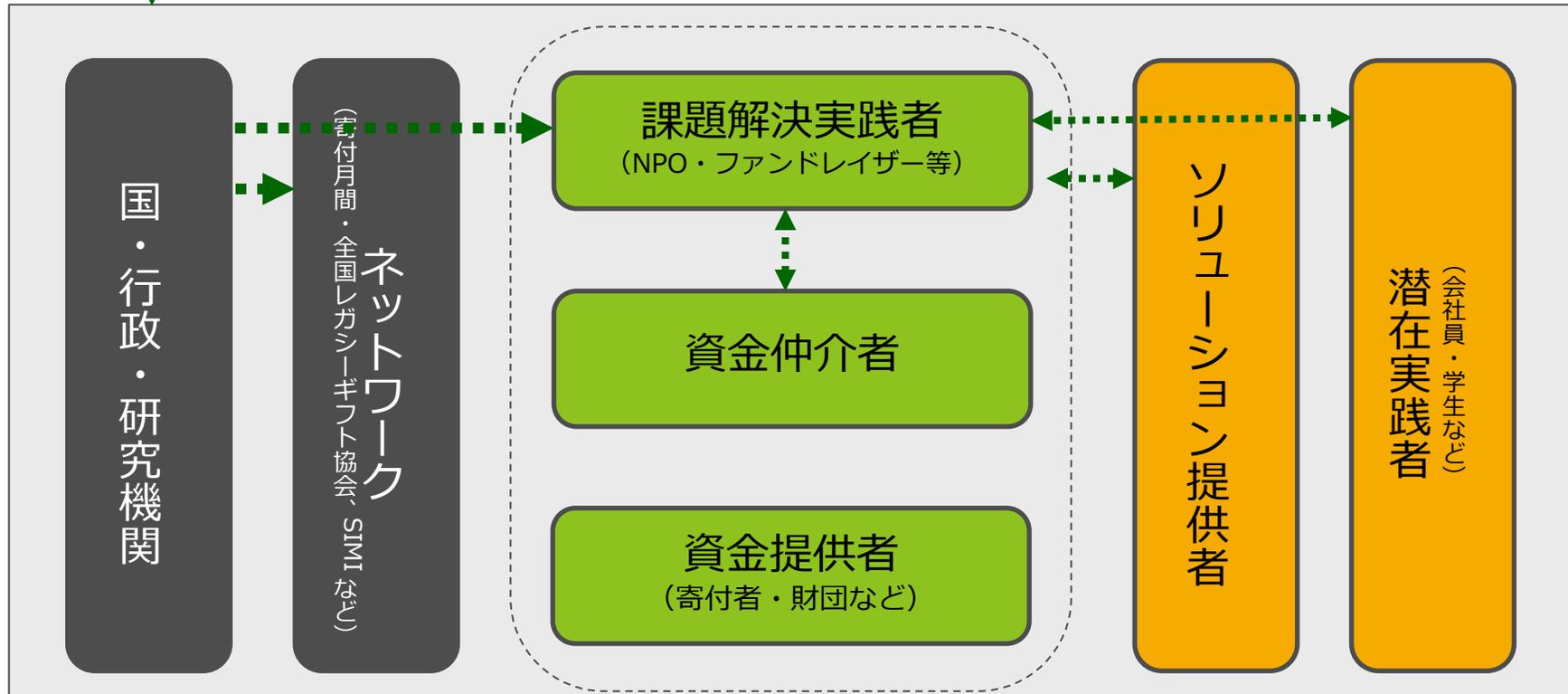
- ファンドレイザーの多様なキャリアパスの明示と身近なファンドレイジングの成功事例の発掘と可視化をし、ファンドレイザーの活躍の機会をつくる
- その集大成の場としてのFRJを実現する

エコシステムの進化に向けた主要なアクションイメージ①

① ビック・ブレイクスルー

■ 制度や仕組みの創出で大きな規模での機会を創出することで、大学・研究開発法人、社福、財団、NPO等がファンドレイジングの実践がしやすくなる

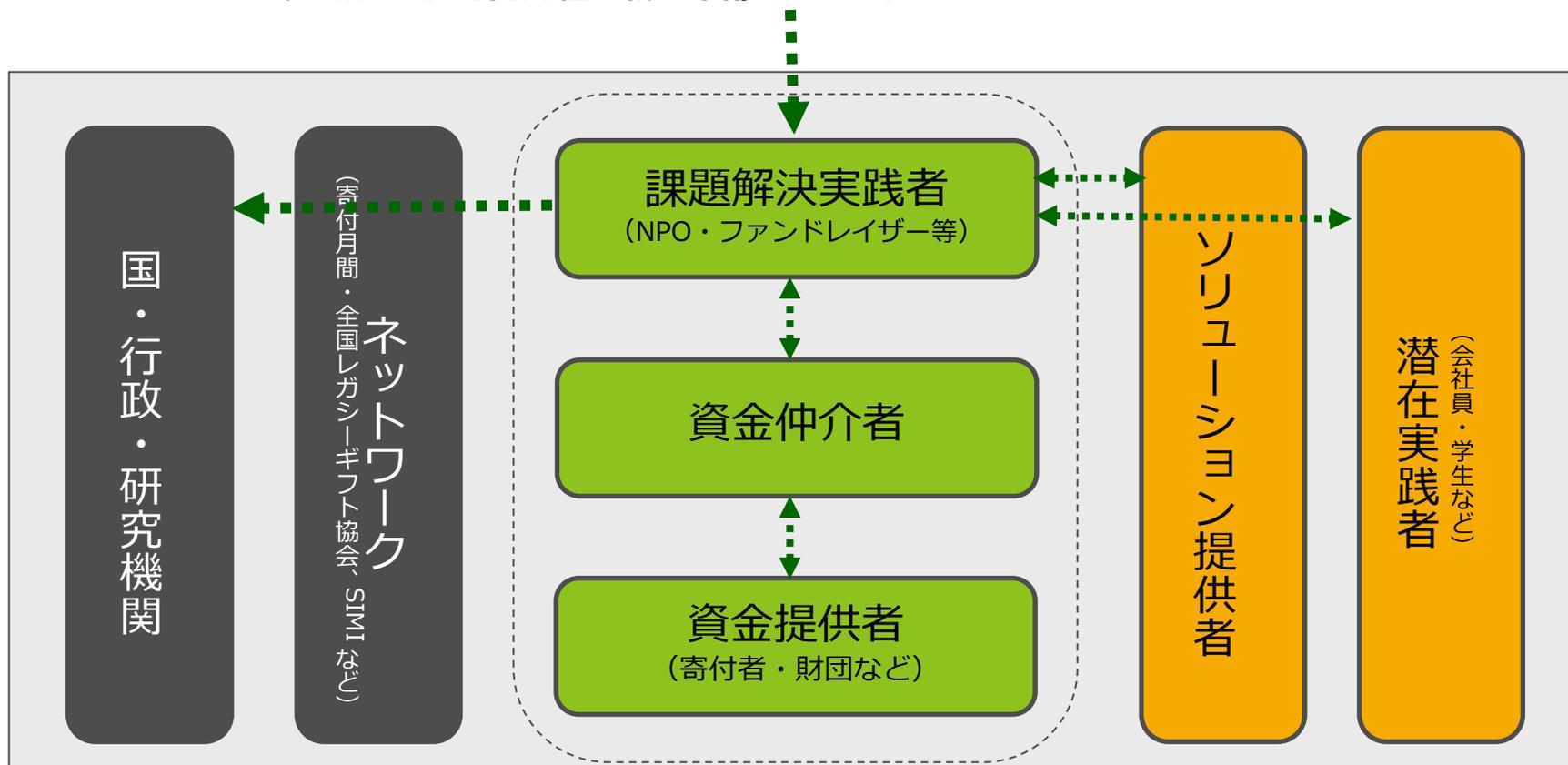
JFRAの役割 | そのための戦略本部のファシリテート



エコシステムの進化に向けた主要なアクションイメージ②

②専門志向と本質を探るコミュニティの設計

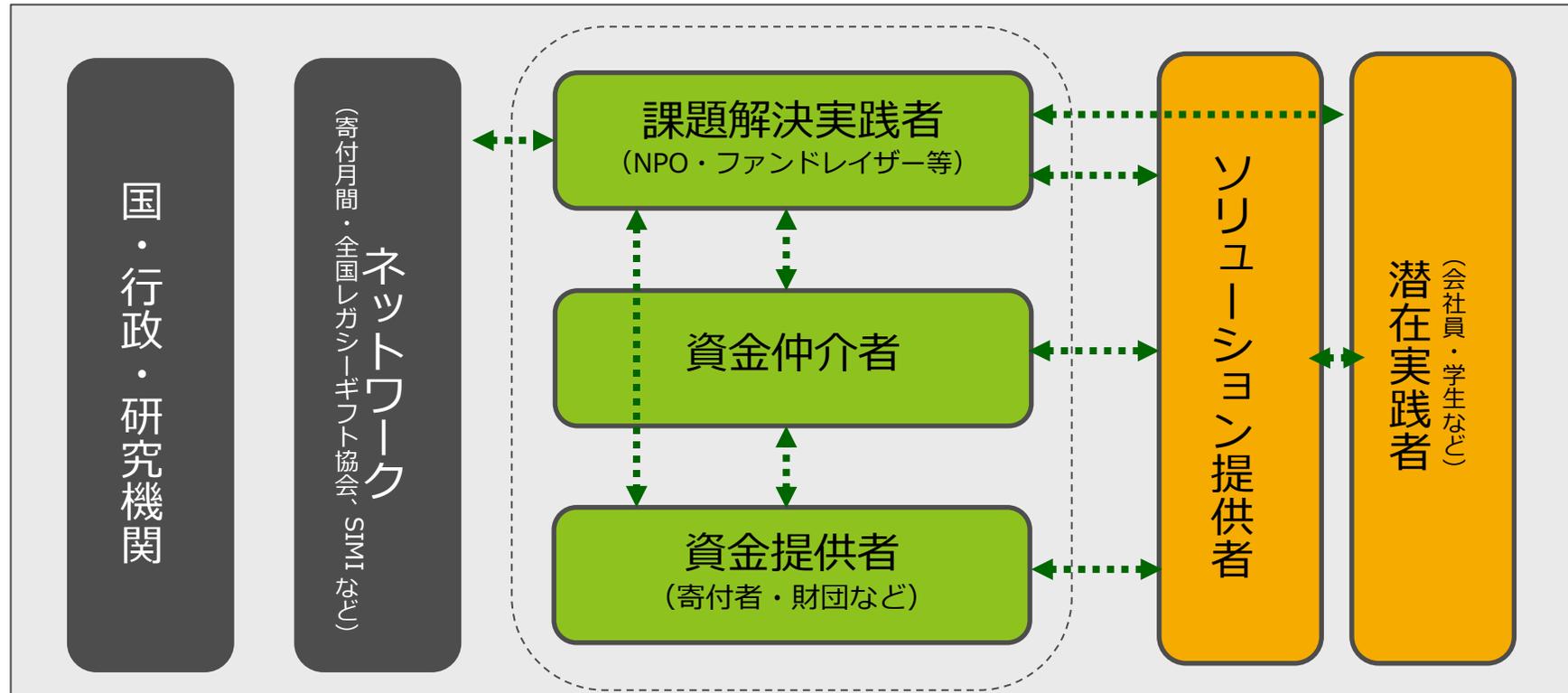
■ 専門領域毎に、戦略本部・専門課程・学びあいのコミュニティを設計することで、ナレッジの共有だけでなく、ファンディングの本質を理解しあえるコミュニティを目指す
JFRAの役割 | 組織基盤強化等の観点もふまえた資格研修のアップデートと、各専門領域毎のファンドレイザーとともに、コミュニティに加えて**“専門課程”**“**戦略本部”**をつくる



エコシステムの進化に向けた主要なアクションイメージ③

③実践と成果を積み上げるマッチング支援

- 多くの団体が伴走者・ハンズオンFR支援を受け入れやすくなる理解・状態を分野・地域毎に実現する
 - 全国の様々な地域・団体の中で、ファンドレイジングが身近な存在となり、実践できる状態を実現する
- JFRAの役割 | マッチング支援のエビデンス・ガイドライン・業界標準の可視化と、身近なファンドレイジングの事例を発掘、可視化する



エコシステムの進化に向けた主要なアクションイメージ④

④ リブランディングとFRJでの可視化

■ ファンドレイザーの多様なキャリアパスの明示と身近なファンドレイジングの成功事例の発掘と可視化をし、ファンドレイザーの活躍の機会をつくる

JFRAの役割 | FRJの場を最大限有効活用する。



ファンドレイジングの多様なキャリア

